

平成 27 年度高大連携・学問探検ゼミの成果発表会を開催しました



2016年1月29日に「教育GP」の中核事業である「学問探検ゼミ（大学2年生の中級演習Ⅱ）」の宮町・佐藤ゼミの成果発表会が大分大学経済学部101号教室で行われました。当日は大分市内の高校生90名、宮町・佐藤ゼミに所属する大学生10名、高大の教員11名、合計113名が参加者しました。本学経済学部2年の学生352名が22のいずれかの中級演習Ⅱに所属します。今年度は、6つのゼミ（宇野ゼミ、仲本ゼミ、大呂ゼミ、佐藤隆ゼミ、藤村ゼミ、宮町・佐藤ゼミ）が大分南・大分^{おぎの}雄城

台・大分・由布の各高校から21名の2年生を迎え入れて開講しました。宮町・佐藤ゼミには、高校生5名と本学2年生10名が参加し、本学教員の宮町良広、佐藤裕哲が指導に当たりました。

この事業は「学びは高きに流れる」ことを基本理念として、高大それぞれの立場から連携教育を発展的に推進しようとする取り組みです。大分県教育委員会と本学は、平成19年7月に高大連携協力協定を結び、平成20年度から高校生を迎え「学問探検ゼミ」を実施してきました。



「学問探検ゼミ」は、高校生が“学問の入口”を大学生と一緒に学ぶことで進学意識の向上やキャリア形成に役立つようにと、高校と本学経済学部との高大連携事業として位置づけられています。高校生にとっては、大学の実際の授業に参加することで、大学の空気や大学生の学習仕方を直に肌で感じることもできる貴重な機会となっています。



宮町・佐藤ゼミでは、関心のある社会科学分野を各班で設定し、具体的な事例を調査研究しました。テーマや学問分野の選定、文献調査の仕方、問題意識、調査・分析、論文のまとめ方、高生の指導、発表用スライドの作成など、高校生と一緒に毎時間盛りだくさんの課題に挑戦する悪戦苦闘の連続でした。当日は、3グループの発表が行われました。発表テーマは「B to C業界における企業の経営戦略」、「大分の限界集落～地域学から考える～」、「プレミアム商品券について考える～地域経済学の視点から～」で、いずれも高校生や大学生を取り巻く事象を直視し興味・関心や疑問点を、各学問分野から迫った内容でした。班ごとに学問分野と研究トピックを決めて、前半は資料収集とレポート作成、後半は発表会に向けた準備を行いました。発表後、来場した高校生から「限界集落の地域的差はあるか」などの質問が出され質疑応答が行われ、回答に窮する場面や笑いに包まれる場面もありました。最後に宮町教授から受講高校生に修了証書が授与され、佐藤特任教授が本ゼミの意義や発表会の講評を行いました。

受講生から「課題へのアプローチの方法がわかり、3年のゼミに入る前の準備が出来た」、「高校生に教えることは難しい」（大学生）、「じっくり取り組むことの大切さを学んだ」、「大学生の課題への取り組み方はすごいと思った」（高校生）などの感想が届け、収穫の多い時間を過ごすことが出来たようです。来場高校生から、「発表内容は難しかったが、興味が湧いた」などの感想が寄せられました。発表会の進行は、経済学部2年の川崎未来さんが務めました。



受講生から「課題へのアプローチの方法がわかり、3年のゼミに入る前の準備が出来た」、「高校生に教えることは難しい」（大学生）、「じっくり取り組むことの大切さを学んだ」、「大学生の課題への取り組み方はすごいと思った」（高校生）などの感想が届け、収穫の多い時間を過ごすことが出来たようです。来場高校生から、「発表内容は難しかったが、興味が湧いた」などの感想が寄せられました。発表会の進行は、経済学部2年の川崎未来さんが務めました。